

特別連載

Vol.23

1950年代のプロ野球 スタルヒン(トンボ)ユニホーム

1950年、セ、パ両リーグによる2リーグ制がスタートしましたが、現在のように6球団ずつではなく、セ8球団、パ7球団での船出で、1950年代は球団数の変動が続きます。

51年2月にはセの西日本パイレーツが、パの西鉄クリッパースと合併し、西鉄ライオンズとなります。続いて、53年1月には松竹ロビンスが大洋ホエールズと合併、大洋松竹(洋松)ロビンスとなり(※1)、セ・リーグは6球団となります。

7球団のパ・リーグは日程編成上の都合の悪さもあり、リーグ総裁の永田雅一氏(大映スターズオーナー・1988年野球殿堂入り)主導のもと、新球団創設に動きまします。54年、高橋ユニオンズ(※2)が誕生し、パ・リーグは8球団となります。高橋ユニオンズは55年にはトンボ鉛筆の援助を仰ぎ、トンボユニオンズと改称、56年には高橋ユニオンズに戻るなど資金的にも行き詰まり、57年2月には大映スターズと合併し大映ユニオンズになりました。その大映が、同年11月に毎日オリオンズと合併し毎日大映(大毎)オリオンズとなります。58年からパ・リーグも6球団となりました。

同年には長嶋茂雄選手、杉浦忠投手が、翌年には王貞治選手がプロ入りし、プロ野球はセ・パ12球団体制で黄金時代を迎えることとなります。そして来る2015年シーズンで、12球団体制は58年目を迎えます。

写真は55年、ヴィクトル・スタルヒン投手(トンボユニオンズ・1960年野球殿堂入り)のユニホームです。スタルヒン投手は、この年プロ野球初の300勝を達成、その際に着用していたビジター用ユニホームです。当時は39年の勝利記録が42勝から40勝に修正されていたため、300勝の達成試合は9月4日の大映戦(西京極球場)でしたが、後に修正が取り消された経緯があり、7月28日の近鉄戦(川崎球場)が300勝達成試合となります。高橋球団はわずか3年の活動でしたが、最初の300勝投手が誕生した球団としても球史に名を残しています。

- ※1 54年12月には松竹が撤退、名称は大洋ホエールズに戻った。
- ※2 大日本麦酒社長(後のアサヒビール、サッポロビール)で、日本商工会議所会頭や通産大臣を務めた高橋龍太郎氏をオーナーに創設された。

球団数の推移

	セ・リーグ	パ・リーグ
1950	8	7
1951	7	7
1952	7	7
1953	6	7
1954	6	8
1955	6	8
1956	6	8
1957	6	7
1958	6	6
1959	6	6



公益財団法人 野球殿堂博物館 学芸員 関口貴広